

田山寛豪の24位が男子最高位

2007ITUワールドカップ北京大会速報2

今期好調のチャベール・ゴメス(スペイン)が優勝

9月16日(日)、2008年の北京オリンピックのプレ大会として、2007ITUワールドカップ北京大会の第2日・エリート男子のレースが北京市昌平区で行われた。

心配された雨は降らなかったが、天候は曇り。気温は前日より低いが温度の高いレースとなった。

ウエットスーツは着用禁止。午前10時ちょうどのスタートとなったが、スイムを最初に上がったのはアンディ・ポッツ(アメリカ)で17分29秒のタイム。2位はクレイトン・フェテル(オーストラリア)。3位には田山寛豪(チームテイケイ)が5秒差で上がり、トランジションまでに2位となった。

バイクでは、1周目序盤の登りで優勝候補の一人であるティム・ドン(イギリス)がオマール・タヤラ(シリア)と接触して転倒。左腕を負傷してリタイアするアクシデント。

1周目を終わったところで約30名の第1集団には田山が、第2集団には山本良介(トヨタ車体)、山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)、細田雄一(ウイダー)が位置する。

しかし2周目には第1集団と第2集団が一つになり、57名の大集団となった。

そのなか、3周目にはシェーン・リード(ニュージーランド)が、4周目にはウィリアム・クラーク(イギリス)が逃げを試みるが、いずれもすぐに集団に吸収された。

山本淳一は、バイク最終周にバイクのホイールが破損して交換をし、西内洋行(西京味噌)がいる第2集団まで下がってしまった。

バイクからランのトランジションは、大混雑。ここで、山本良介40位、田山寛豪49位と出遅れたのが後に響いた。



85名の男子スタート



田山寛豪はスイム3位



57名の大集団となったバイク

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



田山寛豪の24位が男子最高位

2007ITUワールドカップ北京大会速報2

ランに入ると、1周目途中で飛び出したのは、今期好調のチャベール・ゴメス(スペイン)がすぐにリードを奪う。

追うのは、サイモン・ウィットフィールド(カナダ)、カートニー・アトキンソン(オーストラリア)、それにペバン・ドカティとクリス・ゲメルのニュージーランド勢。

日本選手は、20位代後半を田山、山本良介、細田の3名が走る。

周回ごとにゴメスはアドバンテージを確実なものとし、1時間48分41秒で優勝した。2位はアトキンソン、3位はドカティだった。

ゴメスは「優勝できて、来年の北京に向けての弾みとなる」と喜んだ。

日本選手は、田山が順位を上げ24位で最高位。山本良介26位、細田36位、山本淳一63位、西内66位だった。

なお、レースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



ランでチャベールゴメスを追う集団

田山 寛豪

田山寛豪(チームテイケイ)



スイムはやっと思ったような感覚が戻ってきて3位になることができた。バイクでも積極的に走ることができたが、トランジションの直前ではいい位置取りをができなかった。これが課題。ランは、まだまだ切れがもどっていない。これから、来年まで万全の練習をする。



優勝して観衆に応えるゴメス



ゴメスを追った4名。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

